

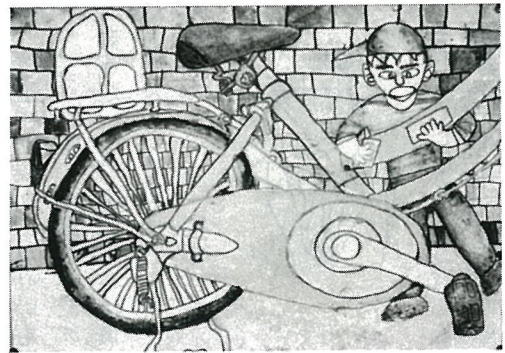
1年
 椎名 裕美さん
 ※ていねいに書きま
 した。



5年1組
 佐藤 愛さん
 ※大きく、どうどうと書き
 ました。



3年1組
 川島 慶子さん
 ※曲がりが上手に書
 けるようにれん習
 しました。



『自転車を見がく人』



5年2組
 鈴木 淳介くん
 ※自転車の立体感を
 出すが、むずか
 しかったです。

ひかり歌壇

秋晴れの秩父の山裾彩どれる
 風車はひびく水子地蔵に

青柳 フミ (橋場)

山裾に立ち並ぶあまたの水子地
 蔵に供へられて居る風車に作者
 の感動がこもる。

赤とんぼ追いてはしゃげる背の子も
 いつしか手足ゆるみて眠る

椎名 静子 (二又)

下句の具体化が効いて愛情ゆた
 かな作品となる。

山峡の刈田の畦に瑞々と
 真紅に群れて曼珠沙華咲く

土屋 好 (虫生)

静かな山峡の畦を行きつつも詩
 情ときめく作者の発想の喜び。

雲移り片日照りせる昼下り
 病夫の寝巻きすかさずに干す

竹内 紀葉 (篠原)

不自由な病院暮らしの毎日佗び
 しく仰ぐ秋の空、ふと雲の切れ
 間より零るる陽の光りは嬉れし
 くも有難い。

短評 竹内 紀葉